
愛重

清井哉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

愛重

【Nコード】

N1685BA

【作者名】

清井哉

【あらすじ】

愛を言葉にしない年上の恋人、白夜。

白夜を精一杯愛し、返らない愛の言葉を繰り返すロン。

ある日疲れて返ってきた白夜にいつも通り愛を伝えると、白夜は言う
「お前はその言葉の重さを分かつたらん」
その日からロンは…

ガチャリと玄関の戸が開く音がした。

白夜くんが帰ってきたんだと、咄嗟に私は判断出来た。

「おかえりなさい！白夜くん、お疲れ様です」

「ああ、ただいま」

白夜くんはいつにも増して疲れているようだった。

今日はゆっくり休ませてあげよう

そう思った私は、彼に食事が出来ている事を伝えた。

彼は、「おう」とだけ言い放ち食卓へと向かう

その数歩後ろを彼の背中を見つめながら

私は歩きついて行った。

「美味しかったですか？」

「ああ」

「そうですね、よかったです」

食事も終わり食器を片づけながらの少しの会話
私にはそれが幸せに思えた。

「白夜くん、好きです」

「おう、ありがとな」

ニコリと笑いながら言つと、
彼はチラリとこちらを見て礼を言う。

「白夜くん」

「何や」

「愛しています」

「……」

いつもなら素っ気ない返事の一つでも返ってくるのに。
今日はよほど疲れているのか。
そう思っていた矢先の事だった。

「俺はお前に、その言葉は返せへんで？」

「別に返して欲しくて言ってるんじゃないありません。私が貴方を愛しているから、それを伝えたくて……」

「愛だの何だのは、そんな軽い言葉やない」

私は愛も好きも、そんな簡単に言った事などなかった。
何度も彼に言つて来た言葉は、
ちゃんと心の底から告げていた。

「お前はその言葉の重さをわかつたらん」

「それは私の愛が、言葉が、重いと云うのですか？」

「あ？せやからな、そう言う意味やのーて」

「じゃあ何故・・・ッ」

そう思っていないなら、重く無いと思うのなら、何故そんな言葉が彼の口から出たのか。

彼にとって私の言葉が重荷だと言うのなら・・・。

「もういいです。分かりました」

「何がもういいんや、分かってへんやろ」

「もう言いませんし、伝えたりしませんから」

その日から私は、彼に愛を告げ無くなった。

(後書き)

続きませんよ？ W

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1685ba/>

愛重

2012年1月4日09時47分発行